

現状にこだわることなくチャレンジを!



藤森良枝

(株)NBCメッシュテック 研究開発部
[191-0053] 日野市豊田2-50-3
係長, 博士(工学).
専門は材料工学.
fujimori.yoshie@nisshin.com
www.nbc-jp.com/

2008年に博士課程を修了する頃には、モノづくりがしたいと、迷わず就職を決心し、今勤めている会社に入社しました。その当時、女性でかつ博士課程を修了後、そのまま新卒で企業に就職という道は、筆者の周りにはほとんどいませんでした。モノづくりにはもともと興味がありましたが、博士課程に進んだ理由は、高校のときの物理の先生が、授業中にクラス全員に向かって「理系の大学に行くならば、博士まで進んだほうがいい」と言ったことをそのまま信じたためです。今から思うと素直すぎる(?)自分に呆れるばかりですが、その思い込みでここまで来たので、それも良い運命だったと思います。

入社した会社が高細線のメッシュ(篩のように、均一な大きさの網目をもった織物)の製造メーカーであったことや、卒業した大学が信州大学の繊維学部であったことから、繊維に携わると思っていました。入社し、配属されたときに与えられた研究テーマは「抗菌・抗ウイルス性を示す加工剤」についてでした。物理・化学の分野から、突然、生物の分野にかかわることになり、当時の筆者には、「菌」、「ウイルス」、「カビ」の区別すら判らず、1から勉強することになりました。幸いにも先輩から丁寧に指導を受けられたことに加え、筆者が大学の頃にいた研究室が比較的幅広い分野にチャレンジする研究室であったため、筆者自身も自分の専門にこだわることなく、取り組むことができました。分野と分野の境界に新しいビジネスが生まれるとのこともあり、異分野に取り組めた経験は、筆者にとって非常に良かったと思います。

今では筆者の仕事の中心となっている「抗菌・抗ウイルス加工剤」の開発ですが、最初は苦い経験から始まりました。配属されてまもなくのある日、社内で検討していた抗ウイルス加工剤の性能評価を、外部機関に依頼したときのことで。この前に同じサンプルを試験に出しており、良い結果が得られていました。しかし2度目の試験では全く効果が出ず、愕然としました。焦って調べたところ、1度目のサンプルは、2度目の本来のサンプルと間違えていることがわかりました。

1回の依頼が30万円以上もする非常に高価な試験であったうえ、本来のサンプルには効果がないことがわかり、頭が真っ白になりました。そのときに思い出したのが、新入社員研修で教えられた「ホウ・レン・ソウ」つまり「報告・連絡・相談」の話でした。「とにかく事態が悪いときほど、素早くしましょ!」と言われたことを思い出し、解決案もないまま、泣きそうになりながら、すぐに上司に報告に行きました。そのときの上司の言葉は今でも忘れられません。「(間違えたサンプルで)いい結果が目の前に出ているのだから、それをどうやって使うかを考えればいい」と。そのような違う角度から見るができなかった筆者には目から鱗が落ちる思いでした。この失敗から3年くらいは、この出来事を思い出すだけで泣けてくるので、話すことができずして、今では「見方を変える重要な教訓」として、また、笑い話として話すことができるようになりました。その後、この偶然に見つけた「間違えたサンプル」をきっかけに、抗ウイルス技術(後に「Cufitec®」と命名)の開発が始まり、やりたかったモノづくりに携われたこと、さまざまな大学の先生方にご教示を受けることができたこと、自由に取り組ませていただけたこともあり、必死にがんばり、商品化にまで至ることができました。

そこから数年経ち、もっと成長しなければと足掻いていた中で、その当時、共同研究をしていた大学の先生の紹介で、アメリカのニューヨーク市立大学Hunter Collegeで2012年から1年間ポスドクとして勉強する非常に貴重な機会を与えてもらえました。このときまで一度も海外に行ったことがなかった筆者は、「海外で本当に人が生活している!」と、当たり前なのに妙に感心した覚えがあります。

現在、また新たな取り組みにチャレンジしています。未知の分野への取り組みは不安の連続ですが、現状にこだわり過ぎることなくチャレンジすると思わぬところに幸運がもたらされることを、ここでお伝えすることができたら幸いです。